

郡山市生成AI 活用ガイドライン 【第6版】

人口減少社会・超高齢社会において、限りある職員数で行政需要に対応するためには、デジタルを最大限活用した行政運営が不可欠となります。

職員数が不足し、行政課題に対応できない事態を避けるためにも、生成AIを皆さんのパートナーとし、上手に活用していく必要があります。

第6版 改定内容

- ① 総務省が示した自治体職員向け生成AIシステム利用ガイドライン（ひな形）の内容を踏まえ、「5つのルール」に
 - ・業務上知り得た情報は、私的に利用する生成AIに入力してはならないこと、
 - ・業務委託した外部事業者における生成AI利用に係る取扱いなどを追記
- ② exaBase生成AI for自治体の「特徴的な機能と留意事項」を削除（別途作成する「基本的な使い方」に記載）

業務における生成AIの利用ルール等について記載したガイドラインです。これら内容に変更があった際は、随時更新します。

生成AIを利用する場合の5つのルール



(1) 利用できる生成AIは、「テキスト生成AI」のみ

(2) 本ガイドラインに定めのないツールやサービスの利用禁止

(3) 機密性3情報は取り扱わない

(4) 原則として、生成物はそのまま利用しない

(5) 権利侵害や虚偽の情報を含む生成物の排除

(1)

利用できる生成AIは、「テキスト生成AI」のみ

- 画像、動画、音声の生成AIは、生成物によって著作権を侵害する恐れを排除することができないため、原則、使用を禁止するものとします。



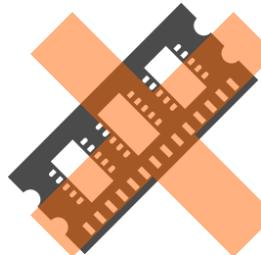
テキスト生成

質問を入力することにより、AIが内容を解析し、回答を作成する



画像生成

入力内容に応じて、AIが画像を生成する



動画生成

入力内容に応じて、AIが動画を生成する



音声生成

入力内容に応じて、AIが音声を生成する

- テキスト生成AIは、一部の適さない事項を除き、様々な業務で活用できます。

効果が期待できるものの一例

- 挨拶文、添書等の案の作成
 - 世代間における文章の言い換えや多言語翻訳
 - 計画等の文書を作成するための章立て
 - キャッチフレーズ等のアイディア出し
 - 多種多様な課題の発見とその解決方法のアドバイス
- など様々な業務で活用することができます。

適さない事項

- 検索エンジン的な活用（偽情報がまぎれる）
- 業務マニュアルやフローチャートの作成
(必要な情報を生成AIが学習していない)
- 税額の計算等の正確性が高度に求められるもの

(2)

本ガイドラインに定めのないツールやサービスの利用禁止

- 入力した内容が学習されることを防ぐため、**業務上利用できる生成AIは原則として以下に掲げるもののみ**とします。業務上知り得た情報は、私的に利用する生成AIには絶対に入力しないでください。
- 本ガイドラインの内容をよく理解の上、適切に使用してください（末尾に掲載しているチェックリストを活用しましょう。）。
- 「exaBase生成AI for自治体」については、事業者提供研修動画の視聴を推奨します。

環境	行政AIマサルくん	exaBase生成AI for自治体
利用可能ユーザ	会計年度任用職員を含む全職員	会計年度任用職員を除く正職員、任期付職員、再任用職員
端末機	執務室で使用している業務端末機	執務室で使用している業務端末機
接続環境	インターネット接続系	<u>LGWAN接続系</u>
特徴	国が発行している各種「白書」や「基本計画」等が追加学習されており、行政情報に基づく高い正確性が期待できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「GPT-4o」を始め、任意の大規模言語モデルを選択して利用可能（一部は文字数制限付） ・ <u>独自データ連携機能を有している。</u>
利用開始時期	2024年2月～	2024年10月～
取扱可能な情報	機密性1（公表可能な情報）のみ	機密性2 （秘密文書に相当しないが、直ちに一般に公表することを前提としている情報）まで可

※ 例外：部局・所属固有の業務に対応するため利用等する生成AIサービス（次ページ参照）

(2)

本ガイドラインに定めのないツールやサービスの利用禁止

部局・所属固有の業務に対応する生成AIサービスの利用、又はシステム構築に関する予算を計上する場合は、以下のとおり御対応ください。

- まずは事前にDX戦略課まで御相談ください（ネットワーク構成のほか、セキュリティ担保の観点から確認、助言を行うため）。
- 新たに生成AIを含むシステム構築に関する予算を計上する場合は、統括情報セキュリティ責任者（政策開発部長）に対し、情報システム企画書を提出する必要があります。
- プロンプトに応じ、チャット形式で回答が生成されるもののみならず、バックグラウンドで生成AIが動作するシステムも本ガイドラインの対象となります。
(例. 福祉分野の相談業務に導入した「相談内容要約システム」)
- 画像生成、動画生成、音声生成は行わないものとしてください。
- 以下のような措置を講じ、セキュリティを担保する必要があります。
 - 入力した情報は学習させない仕組みとする（オプトアウト）
 - 機密性3の情報は取り扱わない（インターネット接続系で利用する場合、機密性2・3の情報は扱わない）
 - サーバは国内設置に限る

※ 業務委託した外部事業者が、成果物の作成に当たって生成AIを利用することも考えられます。当該成果物は当市に帰属することに鑑み、①権利侵害や虚偽の情報を含むものとなっていないか確認させ、その結果の報告を受けることとする、②必要に応じて①のような取扱いを仕様書等に記載するなど、事業者に対し、生成AIの適切な利用を求めてください。

(3) 機密性3情報は取り扱わない

3ページに掲載のとおり、利用できる環境に応じて情報の取扱制限を設けていますが、**特に機密性3の情報については、いずれの環境においても取扱禁止**とします。

機密性	セキュリティポリシー上の分類	情報資産の例
取扱禁止	3 秘密文書に相当する、高い機密性を要する情報資産	個人情報、契約関係情報、訴訟・審査請求等に関する情報
	2 秘密文書に相当しないが、直ちに一般に公表することを前提としていない情報資産	内部通知、事案決定手続を経ていない企画資料、経常業務の事務手順や実績
	1 機密性 2・3 以外の情報資産	市ウェブサイト等で公開済みの行政情報

(4) 原則として、生成物はそのまま利用しない

- 生成した文章は**原則としてそのまま利用せず、職員の手で推敲**してください。
- **生成物を利用することは、その内容に対する説明責任も負う**ということです。正確性・公平性などの観点で確認し、利用の適否を判断するとともに、必要に応じて文章の加除修正を行ってください。
- やむを得ずそのまま引用する場合は、**出典を明記**してください。
 【記載例】この文章の全部（又は一部）は「exaBase生成AI for自治体」から引用しています。
- 例えば、**長文の多言語翻訳について、生成AIによる出力結果であって、誤りが含まれる可能性があることを明示した上で表示する**といったことが考えられます。

(5)

権利侵害や虚偽の情報を含む生成物の排除

生成AIは、その特徴から、出力結果に関して以下のようなケースが生じる可能性があるとされていますので、右欄に掲げる対応を行うようにしてください。

(「行政の進化と革新のための生成AIの調達・利活用に係るガイドライン」(2025(令和7)年5月27日デジタル社会推進会議幹事会決定)による。)

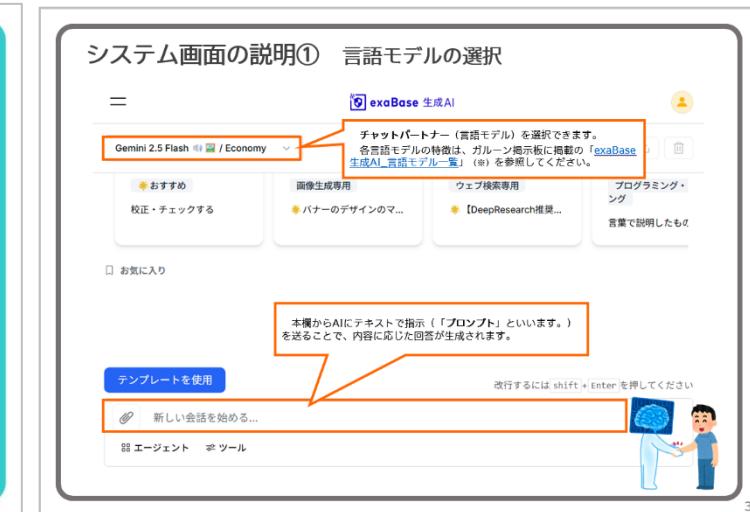
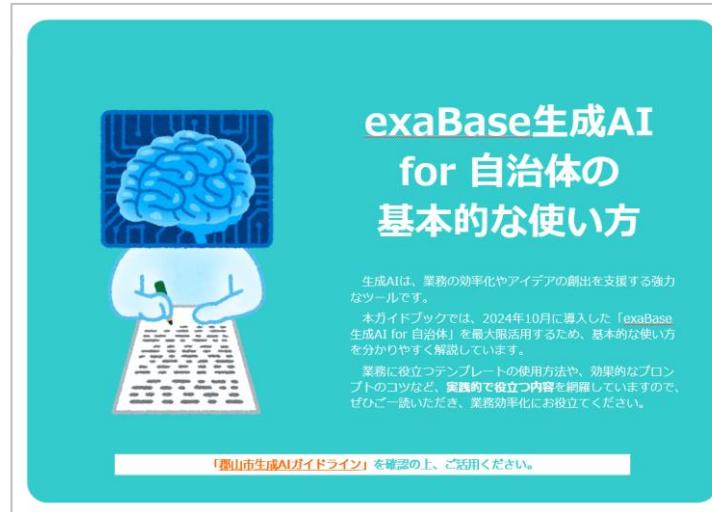
リスクケース	対 応
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 生成AIが人種・性別・文化等に関する偏見や差別を含む社会的に大きな問題となり得る出力を行った。 ➤ 生成AIが攻撃的又は危険な出力を行った。 	<p>生成物は利用せず、その内容をDX戦略課まで報告してください(DX戦略課から、職員への注意喚起及び事業者への情報共有を行うため)。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 生成AIが事実と異なる情報を出し(ハルシネーション)、職員がその情報を利用したことによって職員又は第三者に不利益を与えた。 ➤ 生成AIにより既存の作品に類似し、著作権の侵害等の問題が生じる可能性が高いコンテンツを意図せず生成し、利活用したことで当該作品に係る権利者等から削除等の申出を受けた。 	<p>職員又は第三者に不利益を与えたり、著作権侵害等に至ったりしないよう、生成物の利用前に、</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 既存の著作物等に類似しないか確認 ✓ 虚偽の情報が含まれていないか疑い、 ファクトチェックを徹底 <p>してください。</p>

※「ハルシネーション」について：性質上、誤った出力を完全に防ぐことは極めて難しいとされているほか、従来のAIでも指摘されていた学習過程・出力過程の信頼性・透明性への懸念、大量のデータに潜む偏見や差別等のバイアスをそのまま再生成することなど、様々なリスクが指摘されています。

(1) exaBase 生成AI for 自治体

LGWAN環境から利用できます。

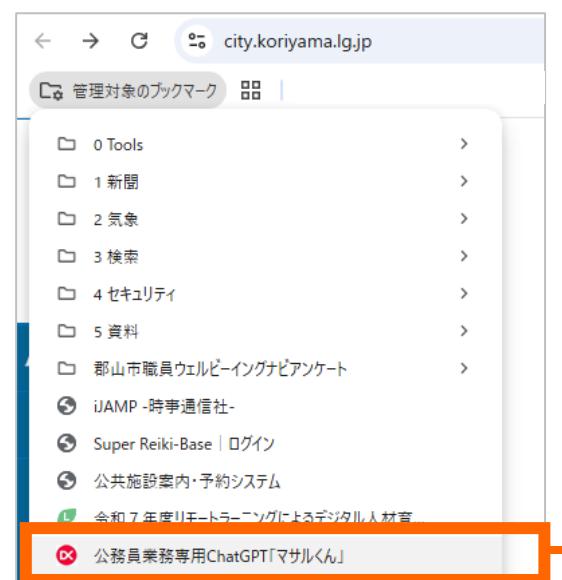
アクセス方法を始めとした内容を「exaBase生成AI for 自治体の基本的な使い方」に別途まとめてありますので、これを参照してください。



(2) 行政A I マサルくん

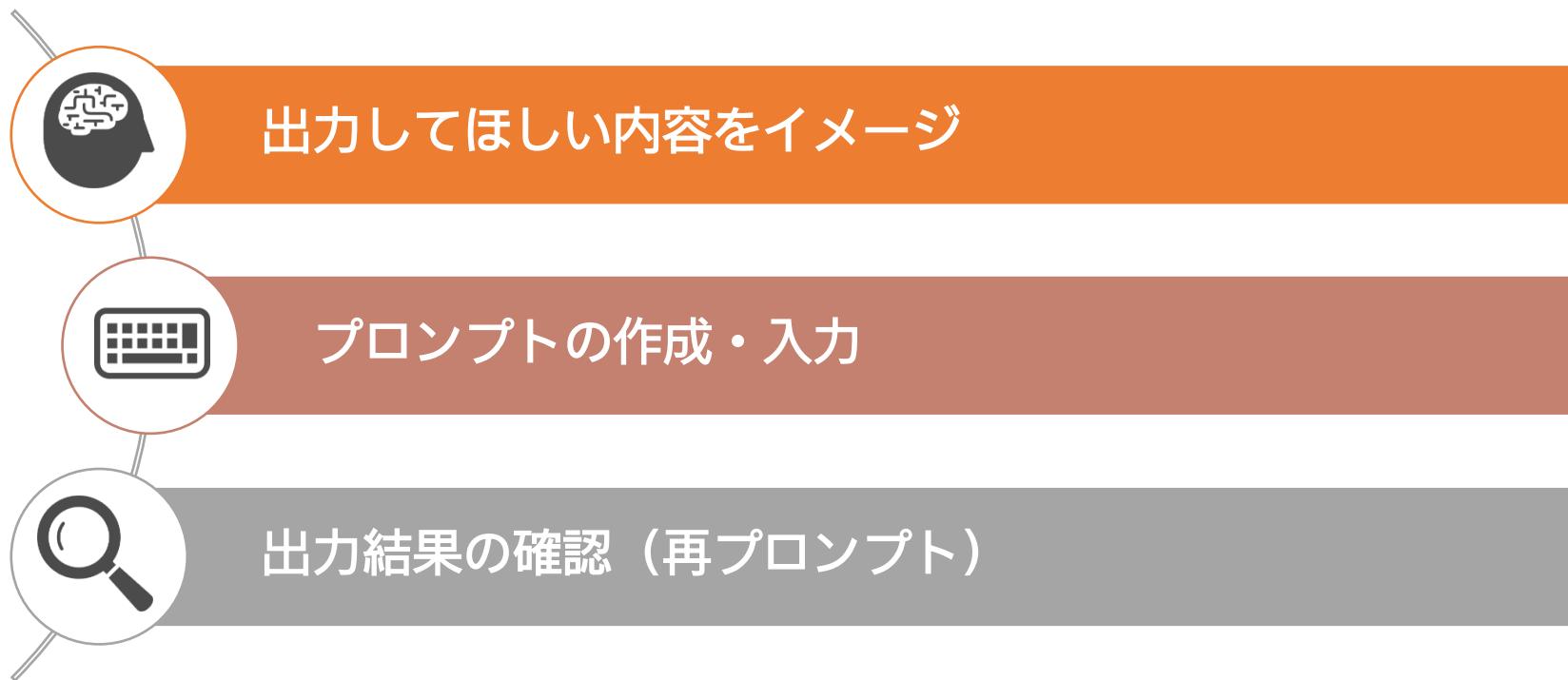
以下の手順によりアクセスの上、利用してください。

- ①インターネット環境のEdge又はChromeを起動し、管理対象のブックマークから「マサルくん」にアクセス
- ②「AIマサル 無料版」をクリックして、「マサルくん」を起動
- ③利用したい機能を選択して開始



効果的な活用方法～生成AIを乗りこなす～

生成AIを上手に活用するには、出力してほしい内容（ゴール）のイメージを持った上で、効率的にゴールに到達するため、プロンプト（生成AIへの質問や指示）を工夫することを意識してください。「生成AIから、期待していた回答が得られない」と感じた場合は、プロンプトを工夫してみてください。



- ただし、詳細なプロンプトの作成にこだわる必要はありません。ブレインストーミングやアイデア出しの場合、会話のラリーを通じて多様な視点やアイデアが引き出されやすく、議論が活発になることがあります。
- プロンプトテンプレート機能を使うことも効果的です。
(「exaBase生成AI for 自治体の基本的な使い方」を参照)



出力してほしい内容をイメージ

生成AIに行ってほしいこと、どのような回答を得たいのかイメージします。理想に近い適切な回答を効率的に引き出すには、生成AIを「**極めて博識だが、業務経験が全くない新規採用職員**」だと思って接してください。

例えば・・・



生成AIの庁内利活用を推進するため、職員向けにセミナーを開催したい。所要時間は90分～120分程度。生成AIの活用方法を理解してもらった上で、参加者が即実行できるスキルを身に付けられるような内容にしたい。タイムテーブルを考えてほしい。

- イメージが具体的であるため、生成AIに明示することで、少ない会話で高精度な回答を得られます。



P10 プロンプトの作成・入力

へ



生成AIの庁内利活用を推進したいが、どのような取組が考えられるだろうか？

- この場合は会話のラリーを前提とし、簡易なプロンプトを入力して出力結果の確認、再プロンプトを重ね、精度を向上させていきましょう。

プロンプト例：



生成AIの庁内利活用を推進する取組の案を提示してください。



P12 出力結果の確認
(再プロンプト)

へ



プロンプトの作成・入力

以下の要素を盛り込むように工夫することを心掛けましょう。

役割

期待する応答のスタイルや内容を明確にできます。

例えば、「教師」の役割を与えて質問すれば、教育的な視点からの回答が得られやすくなります。

依頼

生成AIに行ってほしいことを伝えます。

形式

「案を五つ箇条書きで示してほしい」「表形式にしてほしい」など形式を指定することで、整理された回答を得ることができます。

【プロンプト例】

あなたは人材開発の専門家です。

職員における生成AI利活用を促進するため、セミナーの計画を立案してください。

生成AIの活用方法を理解しました上で、参加者が即実行できるスキルを身に付けられるような内容とし、表形式でタイムテーブルを出力してください。

- このほか、**依頼の背景、ルールや情報（RAGの活用）**を与えることで、**回答精度の向上**が期待できます。
- 生成AIに提供する情報が充実している場合は、上記のような自然な会話文によるプロンプトのほか、「**構造化プロンプト**」形式で提供するとよいともされています。
- ※ プロンプト作成に当たっては、生成AIに提供する情報が正確かつ最新であるかについても留意してください。



プロンプトの作成・入力

「構造化プロンプト」とは、生成AIが理解しやすいよう特定の形式により行う質問や指示のこと、「#」で項目を示したり、「-」で箇条書きしたりするものです。

役割

例. あなたは、外部の専門家の知見も積極的に取り入れつつ、「DX郡山推進計画」の策定を牽引する優秀な職員です。

依頼

例. 「DX郡山推進計画」の策定に当たり、盛り込むべき内容と具体的な章立てについて、以下のルールに基づき助言・提案してください。

ルール

例. - 提案する計画の章立ては、論理的かつ網羅的であり、計画全体のアウトラインを明確に示してください。
- 各章で具体的に記述すべき内容の例、考慮すべき視点を箇条書きで複数提示し、計画策定担当者が迷わず記述できるような示唆を与えてください。

形式

例. 各章の見出しを付けた上で、各章の概要とポイントは箇条書きで分かりやすく記載してください。

背景

例. - 行政職員の数は減少傾向にあり、限られたリソースで質の高い行政サービスを維持・向上させることが求められています。
- しかし、具体的な計画の骨子や、各章にどのような内容を盛り込むべきかについて、まだ整理ができていない状況です。

【構造化プロンプト】

○ 高品質で一貫した出力を得やすい

△ RAG機能を活用したFAQ対応を求めるような場合はかえって非効率

【自然な会話文でのプロンプト】

○ より自由な発想や会話形式に向いている傾向

△ 出力の質が保証されない場合あり

➤ 使用するシーンに応じて形式を選ぶことが大切です。



出力結果の確認（再プロンプト）

生成AIから出力された結果を確認します。

- 「[1 生成AIを利用する場合のルール](#)」に記載のとおり、原則として生成物はそのまま利用せず、既存の著作物等に類似しないか確認、虚偽の情報が含まれていないか疑い、ファクトチェックを徹底してください。
- 出力結果と欲していた内容にかい離がある場合は、改めてプロンプトを入力して回答を再生成させましょう。

〈参考〉

生成AIは、大量のテキストデータから学習して単語やフレーズの関係性を理解しており、与えられたプロンプトに応じて学習したデータから関連する情報やパターンを見つけ出し、最も関連性の高い応答を生成しています。



生成AIとは何ですか。50文字以下で簡潔に説明してください。



生成AIとは、データを学習し、新しいコンテンツや情報を自動生成する人工知能の一種です。



おわりに (生成AIの業務利用に関するチェックリスト)

本ガイドラインの参考資料として、生成AIを業務利用する際に押さえておくべきポイントを整理したチェックリストを以下のとおりまとめました。生成AIの特性を十分に理解し、本チェックリストを活用の上、業務にお役立てください。



利用基準の確認

- 情報システム責任者（DX戦略課長）から支給された情報端末機で利用しているか。
- 本ガイドライン3ページに記載の生成AIを利用しているか。

情報の取り扱い

- ハルシネーションやバイアスなどの生成AIの特性を理解した上で、出力結果を適切に判断し採用しているか。
- 機密性を有する情報について、本ガイドライン5ページに基づき取り扱っているか。
- 機密性3情報（秘密文書に相当する、高い機密性を要する情報資産）を入力していないか。

出力結果の利用

- 生成物が著作権を侵害していないか確認しているか。
- 生成物に虚偽のものが含まれていないか、ファクトチェックを行っているか。
- 生成物を公開する際、人の手で推敲したか。又は、生成物をそのまま公開する場合、出典を明記したか。

活用効果の最大化

- 業務効率化や市民サービス向上などの目的を達成する観点で、生成AIを効果的に活用しているか。
- プロンプトの設計を工夫し、生成AIの出力結果が求める内容に即しているか。